

50周年に寄せて 日曜発明学校は創造力育成の道場

(社) 発明学会会長 平井 工

50周年おめでとうございます。

長い期間にわたって長野県の発明運動を続けてこられましたことは、役員並びに会員皆様が努力された結果です。発明振興を継続された皆様に、敬意を表し感謝申し上げます。

全国の日曜発明学校の始まりは、昭和29年、東京で10名ほどの集まりでした。今では大小55ヶ所で開催されています。長野県発明研究会は、4～5番目に開設された大先輩格です。

これまでの日曜発明学校の参加者から、玩具メーカータカラの創立者佐藤安太氏、マブチモーター創立者の馬淵健一氏、カネボウ食品の初代社長山本与佐次氏など、立派な企業人がたくさん育っています。個人発明家も、電気洗濯機の糸くず取り具を発明した笹沼喜美賀さん、フリーサイズの落とし蓋を発明した鹿島よし子さん、マッチ箱の発明などで2億円もらった筒井一郎さんなど、市民発明家がたくさん育ちました。

日曜発明学校は、発明家育成のための道場といえます。

発明の喜びは、商品化で特許料をもらう、起業して成功する、こればかりではありません。発明活動を通して創造力を身に付ける。これがすばらしいことだと思います。

多くの先輩たちが、発明では儲からなかったが、考える習慣が身に付いて、それが職場や家庭のあらゆる場面で発揮できた、と喜んでいます。そうした創意工夫は、目に見えない形で人生の満足感や幸福を与えてくれます。

日曜発明学校は、このような創造力育成の道場です。これからも地元市民の多くの方々に、創意工夫の喜びを教えることを願っています。